植民地朝鮮、台湾におけるモダンガール表象と消費
―都市的近代と女性雑誌―

ジーナ･エレノア･キム

本報告は、日本の植民地下朝鮮において刊行されていた大衆的女性雑誌『Yôsông(女性)』の内部の力学に焦点をあてる。具体的にはイメージとテキスト、広告表現と商品、消費活動とそこから生まれてくる女性といったいくつかの関係をとりあげるなかで、女性性というカテゴリーが、極めて自己意識的につくられていったことを考察する。ジェンダーは、植民地的近代がもたらす美的で戦略的な政治経済の重要な構成要素であることが明らかになるだろう。また20世紀初頭の朝鮮において社会的な空間として創られた女性雑誌のなかで、女性は都市的近代の消費活動に参加していただけでなく、都市生活や近代のジェンダー･アイデンティティ、そして近代の大衆文学といった公のディスコースの形成にも関わっていたことを述べたい。最後に、モダンガール像に焦点化する予定である。文学の登場人物と、読者あるいは作家としてのモガ像、また日常的な都市生活のなかである種の権威を伴った観察者としてモガ像がいかに物質化されていったかを示すために、モガ像を組み込んだ都市の風景を提示する予定である。